

平成 20 年 3 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 20 年 第 3 回講話

今回質問を 3 つ載いております。ご一緒にお考え戴くとよろしいなと思います。

最初の質問は比田井さんから戴きました。**論語の「子曰く、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」の解説と孔子の心境を・・・**という質問です。

近さんからの質問は、比田井さんの質問とまるっきりジャンルが違います。**政府系ファンドはどこが運用管理をするのでしょうか？** もう一点は、**調査捕鯨の妨害行動の裏にあるものとは何でしょうか？** という質問です。

途中でこの 3 つの質問に対する私の考えを申し上げたいと思います。

さて恒例でございます。嘘をつかなかったかどうか、お聞きします。嘘もすべての嘘が悪いのではなく、人さまの為になるものであればよろしかろうと考えます。

「昨日一日嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

・・・(沢山手が挙がる)

もう一つお聞きします。

「昨日一日、目先の欲につられて、行動しなかった方はおられますか」

・・・(少し手が挙がる)

なかなか難しいですね。目先の欲につられた行動は、ほとんどの方がすると思います。先ほどの質問の政府系ファンドにもつながると思います。一週間、一ヶ月のスパンで考えると、個人のベースで考えるファンド、それから一つの国家を代表するファンド、それぞれのポジションにある方が目先の欲につられて動いたら、たまったものではありません。

「昨晚眠る時、今日は一日満足したと思って、眠りにつくことが出来た方はおられますか」

・・・ちょっと少ないですね。

今お聞きしたことは、基本哲学の「知足(足るを知る)」です。夜寝る時に“ 今日一日良かったな ” と思って眠れば、「足るを知る」が実践できた日だと思って戴いてよい。

「嘘をつかない」に関しては、今日一日嘘をつかなかったと思ったら、又、自分自身が

鍛えられたと思って戴いてよろしいでしょう。

そして「利によりて行なえば、怨み多し」で、目先の欲につられて動いたかなと考えて戴ければよろしいでしょう。

初めての方もおられますので、これを中斎塾フォーラムでは毎回お聞きするようになっておりますので、ご承知下さい。

中斎塾フォーラムでは陽明学をベースにしておりますので、行動・実践を重んじます。

陽明学で重視する理念で、「知行合一」「事上磨練」という内容をすでに申し上げております。1年間ずっとお付き合い戴いて、最終的に残るものは、判断基準を身に付けられれば良いと思っています。その判断基準は、本質・大局・歴史の判断の三原則が身に付けられると素晴らしい。そして総合的直観力が身に付けば凄いと思っています。

判断の三原則は安岡正篤先生が言われたもので、判断をする時の3つの原則があり、それを自分なりに分かりやすい形で、本質・大局・歴史で判断をしましょうというものです。本質なり歴史なりを見る場合に、前提条件として、知識・見識・胆識というまな板に載せることも必要だろうと申し上げております。ですからこれらが身体の中に染み込んだら、大成功と思っています。

それらが積み重なって3年から5年くらい経って、総合的直観力が身についたということになると万々歳だと思います。

では、知識・見識・胆識を使って、質問のお答えを致します。

比田井さんの質問です。「子曰く、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」・・・一言で申しますと、人間が動くエネルギーはここから生まれています。明治維新の原動力はこの言葉です。明治維新の志士たちは、この言葉を金科玉条として動いたわけです。渋澤栄一先生の『論語講義』には、「明治維新の志士たちは、この章句をしっかりと身体に刻み込んで行動した」と解説されています。

この句を知識で考えます。先ほど比田井さんが、「個人的な信義・道徳・人間として踏むべき道を求めて、それが自分の手に入った。悟れたと思ったら、いつ死んでもよい」と言われました。これは個人的な人格の完成ということですが、これはこれで素晴らしい解説です。

同時に明治時代の志士たちは、自分が考える理想社会を実現する為に自分の命を捧げても悔いはないという事だったと思います。日本の来るべき未来、新しい社会を理想社会とすべく全身全力をあげて動く。その結果自分が死んだとしても、これはやむを得ないとい

う気持ちで、この句を金科玉条にしたわけです。

「朝」・・・若い時です。

「道を聞かば」・・・理想社会が現出した。それに対して自分が尽力したと思って行動する。その結果、死すとも可なりという解釈も出来ます。

解釈の仕方は色々あります。新注、古注、両方とも一緒にすると、個人的な人格と理想的社会の実現というところで合致させたので、動こうと思うエネルギーにボツと火をつけたのでしょう。明治時代の志士たちは知識として、この章句がぐさっと突き刺さったのでしょう。それを自分たちの金科玉条にしてどんどん進んでいったのだ、という事が洪澤論語に出ていますので、知識として蓄えて下さい。

それと同時に孔子の感覚で考えると、一生懸命やってきたけれどもなかなか理想社会は実現できない、自分の思った理想社会が生まれてこない。これは自分の代では駄目だと思って、教育に力を注いだわけですから、絶望感・悲哀感がかなり滲んでいると私は感じます。

「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」・・・良い台詞ですね。死に対する考え方も、又、新しいものが生まれてくるように思われます。じっくり味わって読むと良いと思います。

では、別の質問に参ります。政府系ファンドについて近さんから戴きました。結論は「分かりません」という事でした。分かる事は、アメリカがどんどん悪くなってドルの基軸通貨としての位置は揺らいで来ています。その結果として、他の国々、中東諸国・ロシア・中国等がどんどん手を上げて来ています。日本の場合は手を上げるところまでいきませんが、基軸通貨、又は基軸通貨圏を目指している国々が、今非常に増えています。その視点が一つです。

そうすると自動的に政府系ファンドは、各国の政府に近い人達がファンドを作っていると思います。今回、サブプライムローンでがたがたになったアメリカの金融機関に対して、中東のお金が流れ込んでいます。それだけでなく、アメリカに色々な国のお金が流れ込んだ。それは政府系ファンドといわれるものからのお金だというのが見えてきました。それぞれの国のファンドの実態は何なのだろう、共通点は何だろうと思うと、政府そのものです。誤解を恐れつつ言うのですが、何となく感じているのは、その国家を牛耳っている人達、大金持ちや政治家（アメリカで言えばケネディ家やブッシュ家のような、大統領を交代で出しているような一族）いわゆる国家オーナーと言われるような人達が、自分たちのドルが揺らいできたので別の物を作りたい、自分たちのドル資産を何か別の形にしなけれ

ばならないという思惑があってファンドを作り、自分自身のいる所、もしくは息のかかっている所に基軸通貨を持って行きたいという狙いがあるような気がします。ですから一概には言えないと感じます。

そういう動きと同時に、ノルウェーでやっている政府が窓口の年金の原資確保を目的にしたファンドは、違う動きをしています。このファンドの人達は、特にアジア系が多いと思いますが、その国ごとで見ると高齢化社会で稼ぐ人達がいなくなったという問題が起きています。

それとお金をアメリカに投資できなくなったから、有利な投資先を自ら作り出したいという狙いもあります。

政府系ファンドを見る時に、国家オーナーのような存在に目を向けて動いていくファンド、政府そのものが年金の原資を作ろうというような形で進めているファンド、それからヘッジファンドが化けつつあるもの・・・色々なものが絡まりあって政府系ファンドが生まれてきているのかなと思います。

日本人は非常に真っ正直に捉えますから、それを正面から受け止めて、自民党の中で政府系ファンドを作ろうではないかという動きが出たわけです。しかしハイリスクのものを政府が手を出していいのかという議論が起きています。日本はどうも真正面から受け止めて、真正面からやり過ぎているように感じます。

政府系ファンドについては、これから勉強しなければいけないと思いました。はっきり分かる事は、世界の流れで見て、ドルが揺らいで、今までのドルの体制が新しいものに変わろうとする中で生まれてきた、巨大なお金の流れだという感じがします。生まれるべくして生まれてきているのだらうと思います。日本は後だしでジャンケンポンをやっているような感じがしていますが、やらないよりはやった方が良からうと思います。ただ作り方は他の国々と比べてかなり異なるものが生まれるだらうという気がします。正直な所、政府系ファンドはよく見えません。

もう一つ調査捕鯨の問題です。日本人は昔から鯨を食べる民族で、食文化が違いすぎるのです。鯨は頭の前から尻尾の先まで、何一つ無駄にするものがない。日本人はあらゆるものに命・神が宿っているという考え方で生きている民族ですから、日本人の感性をもう少し他の国々の人たちに伝える必要があると思います。

調査捕鯨の妨害活動の裏にあるもの・・・とは、背景を見ましようという事です。ただ単純に調査捕鯨に対して妨害行動をしているというだけではなく、知識・胆識・見識で見る必要があります。

知識として捉えるべきものは、食文化に関してどういう視点が日本と違っているのかを見ると良いでしょう。日本の外交は非常に下手ですね。外交すべきものと正反対の事ばかりしているように感じます。外務省のやっている動きは皆、後出しジャンケンで効果が無い、弱腰という印象ばかりです。この捕鯨問題に関してもそうです。目の前のものだけで手を打つのではなくて、色々な搦め手搦め手で手を打つ。その象徴的なものが、調査捕鯨に対する攻撃行動だろうと思います。

シーシェパードやグリーンピースは、自分たちの収入を図る為に、こういう行動に出ているのだろうと思います。シーシェパードの船長が鯨を保護しようと誓った動機は、「マッコウクジラが死ぬ寸前の目を見た時に、何とも言えないやるせない気持ちになって、鯨を守ろうという想いが自分の心の中にぐさっと突き刺さって、それ以来真剣に行動しだした」と書いてありました。動機はなるほどと思うのですが、行動は酷いですね。船を沈めたり、薬品を投げつけたり、人が死んでも構わないような動きをしています。しかし宣伝が上手ですから、寄付を集めるのに長けた運動だと思います。ターゲットを絞った事によって、シーシェパードは潤沢な資金を手中にしています。グリーンピースは少し違っていますが、基本的な所は変わりません。グリーンピースが元で、シーシェパードが別派で別れたわけです。主張は二の次とは言いませんが、主張をベースにして大きな収入を図る面があります。

それからそれぞれの国から見ると、捕鯨に対する攻撃は、国民の眼くらしに非常に良いものなのです。反捕鯨という持ち駒を使って、自分たちの国の中の問題点を眼くらしにかけて、日本からの譲歩を引き出す材料に使っているように感じます。オーストラリアにしてもアメリカにしても、上手に使っているなという気がします。

妨害活動の裏にあるものを考える時、時代背景を見て、それぞれの国家の立場、それぞれの団体の立場でものを見ると、表面に出てくるものとは違うものが見えてくるとお考え下さい。

では、本日の「心に残る言葉」をご紹介します。

「ただ自己の利益になりさえすれば、他人はどうなっても^{かま}關心わぬという風で世を渡っている人が、世間から多く怨恨を受けている^{そこここ}事實は、其処此処に沢山ある。我利一点張りの人で、世の怨みを受けておらぬ者は、ほとんど一人も半人もないといつてよかるうと思う。」

『論語講義(二)』 渋澤栄一著 講談社学術文庫

これは「利によりて行なえば、怨み多し」の解説です。

今朝方、テレビでメタボリック症候群の話が流れておりました。知り合いのお医者様からお聞きした話ですが、メタボリックシンドロームを使って、政府は1000億円くらい調達したいという事だそうです。後期高齢者保険のお金をどこからか調達しなければいけないからです。腹囲が男性85cm以上であれば、メタボ該当者という事です。社員の中でメタボリック症候群と認定された人がいると、その会社はペナルティーを受けるのだそうです。ペナルティーの中身はまだ分かりませんが、4月1日から特別検診というものを始めるのだそうです。

人の身体にまで税金をかけるとは、嫌な世の中ですね。以前山田方谷の『理財論』の話の中に、こういう言葉があります。その国が減びつつある兆候は、税金をありとあらゆる所まで広げていって、立ち木一本にまで税金をかける。本来かけてはならないところにまで、増税、増税、増税を進めれば、その国は滅びるといことが出ています。

今私は、政府のやることが一つ一つ氣になって仕方がありません。メタボリック症候群に関して税金まがいのもをとろうとするのも、やはり国がおかしくなっている兆候の一つであると感じます。これは「利によりて行なえば、怨み多し」で説明のつく話です。

「利によりて」とは、目先の欲です。全部これで私は解釈しています。個人的な目先の欲、例えば“美味しいものを食べたいな”・・・につられて食べると、結果メタボリックです。

それから収入もそうです。今春闘の時期ですが、賃上げなどするはずがありません。大きな流れで見たら、日本の国のお給料の水準は世界一です。こんなにお金が沢山ある国で、しかもお給料が高い。実感はないのですが、、、。“お給料をそんなに沢山貰っているの？”という疑問がでるのが、世界の国々の流れだと思います。昨年ロシアに行った時、ロシアの大学教授が「たった一つの職業でご飯が食べていけるのだから、日本人は羨ましい」と言いました。ロシアでは2つ3つの職業を掛け持ちしなければ、自分が望む生活水準の収入は得られないといひます。中国の餃子問題にしても、その工場に勤めている方々のお給料は、1ヶ月1万円ちょっとです。

例えば日本人の観光客が外国をぐるぐる回る。外国人から見ると、日本は豊かだなど見えるわけです。日本人はそこらへんが見えません。個人の身体にしても、個人の収入にしても皆自分自身は見えないから、自分ではちょっとした欲だと思える事が、相当甚大な被害をあちらこちらの国に振り撒いています。以前も申しましたが、世界の人口の3%の日本人が、世界の食糧の30%を食べているのです。しかも輸入した食べ物の半分くらいは無駄にしている。自分自身は<ちょっと>だけれども、それが日本人全体にすると大変な迷惑を他の国々にかけているのです。ですから国の単位で考えれば、目先の欲につられて動い

た結果が、世界にどれだけ迷惑をかけているのかと思います。

という事で、「利によりて行なえば、怨み多し」又は「目前の小利、後患を招く」と考えていくと、“もうちょっと食べたい”“もうちょっとお給料が欲しい”“もうちょっと良いものを着たい”・・・もう少し、もう少しが、とんでもない災いをあちらこちらに振り撒く。最後には、つけが自分に返って来ます。

中斎塾で申し上げているのは、<嘘はつかない><正しいと思うことを世の中に向かって提言・実行しましょう><まず自らやりましょう>という事です。目先の欲で動いたかどうかを、毎日夜寝る時に見直してみる事は、とても大事な事だと思っています。

「利によりて行なえば、怨み多し」というものを常に見ていると、何かとんでもない大きな問題が起きた時に、頭が真っ白になる人と自分の判断基準が浮かぶ人が出てきます。

自分の判断基準が生まれるかどうかは、今申し上げた条件を一つ一つクリアしているかどうかにかかっています。それが生活習慣になっていけば良いわけです。

良い習慣を身に付けたら素晴らしいですね。論語で言うと「性相近し、習相遠し」です。生まれた時は皆同じだけれども、生活の習慣化を図って身に付いた習慣があれば、後に素晴らしい結果が待っていると考えて下さい。

新型インフルエンザについて、少しお話しします。

知識・見識・胆識で、知識については最新情報を入れたおいた方が良いからです。最新情報を入れて沢山の知識が出てくると、それらが有機的に結びついて自分がどうすべきだという見識が生まれてきます。

先日ある大企業の研究所に行って、そこの工場長さんにお話を伺って参りました。新型インフルエンザ用の抗ウィルスマスクを研究した分析資料をお持ちして、見て戴きました。

抗ウィルスマスクは今、1000円から1500円程度で薬局で売っています。いくつか買ってみましたら、「陰干し30回までOKです」「洗濯できません」「50回まで洗濯できます」・・・等々書いてありました。どうして同じ抗ウィルスマスクで違うのだろうか、不思議だと思いました。

中斎塾フォーラムの参与が社長をしている会社ですが、動物疫学研究所とシキボウとで共同開発した抗ウィルス用マスクの生産を請け負っているのです。そこから分けて戴いたマスクと分析結果の資料を持って伺いました。見て戴きましたら、「これは正直な会社ですね」と言われました。どこの会社も新型ウィルスに効きますとは書いてありません。そのマスクは「こういう実験をして、新型インフルエンザに99.99%は効きます」という書き方をし

てあります。

世間で今、プレパンデミックワクチンというものが作られています、予想した型が出てこない限り、今作られているものは効果がないという事です。実際に有効なワクチンは、現実に新型インフルエンザが発生して、その患者のウィルスを用いて開発し、完成までには早くても半年かかります。生き延びた人には間に合いますが……。ご存知のように新型インフルエンザが発生したら、3200万人が感染して64万人が死ぬという予測を厚生労働省が出しています。国立感染症研究所からは、600万人くらいが死ぬ可能性は否定できない、という発表もされています。色々な予測が出るけれども、予測をして作ったワクチンがまるっきり効かないこともあると今、感じています。一番良いのは外に出ない事、人に会わない事です。しかしそれはなかなか無理でしょう。新型インフルエンザについて絶対大丈夫というのは、2ヶ月間人に会わない事、2ヶ月間外出しない事です。その為には食べ物・飲み物を用意しておく事。それが最大の対策です。それとマスクも必要ですし、外から帰って来たら手洗い・うがい・洗髪……。これも生活習慣にしておく、生き延びる確率は高くなるだろうと思います。

新たな情報として、中国南京で人から人へ移ったという情報が入りました。先ほど申し上げた中斎塾参与は、現地に行きたいと中国政府にかけ合っています。現実がどの程度のものか見たい、自分が生産しているマスクが効くかどうか試したい、という想いがあるのだと思います。そうなったら、生きて帰れるかどうか分かりません。参与は、このマスクを販売するにあたって、「儲けようと思ってやるのではない。知足の心で、世の中の為になることだからマスクを頒布したい。買う方が喜んで、代理店の方も喜んで戴くような販売方法でゆきたい。結果的に自分も少し喜ぶような、皆が喜ぶような販売方法にしたい。これは知足主義ではないでしょうか。」と言っておられましたが、まさか命までかけるとは思いませんでした。命をかけてそのマスクを頒布したいと思っているのだと感じました。中斎塾フォーラムの中から、知足というものを現実に実践している方が本当に出てきたと感じて嬉しい限りです。

私が願っております事は、中斎塾フォーラムに出て、何か心が綺麗になったとかすっきりしたという気持ちになって戴くのが一番有難い。結果として判断基準が身に付いてきたというのが何ヶ月か経って出ると有難いと思います。具体的には論語の中の一節でも良いですし、話の中で出てくる言葉でもよろしいでしょう。自分が“さあ、ここで判断しなければならぬ”という時に、自分の心の中に“こうすればいいよ”と内なる声が聞こえて、それに素直に従えるような自分が出来ると嬉しいです。大概、良いと思う事をやろうと思っても人間関係のしがらみや金銭的な部分があったり、世の中にとってやるべき事だと思

いつつ手をつけない方が世の中に沢山います。でも一歩踏み出して、自分が良いと信ずる事、結果として良かったと思える事は、やはり広げるべきだし、行動に移して継続すべきだと思います。自分自身の良いと思う事をする上での、エネルギー源に中斎塾フォーラムがなると良いと思います。

私はこれを国内に広げていき、だんだん国外へ広げていき、世界全体に広げていきたいと思っています。そんな事を考えて去年は経済破綻をして国々を回りましたが、今年は温暖化で消滅しそうな国、ブータン・ツバル・・・といった国々を回ろうと思っています。

本日の講話は以上です。有難うございました。